

授業科目(ナンバリング)	博物館情報・メディア論(CB213)			担当教員	中島 金太郎		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>テーマ：博物館における情報及びメディアの利活用</p> <p>博物館における情報提供の方法論について主に学ぶ。近年のメディア機器の性能向上によって、以前よりはるかに多くの情報伝達・情報把握が可能となっている。その中で、博物館が発信できる情報に着目し、博物館情報を扱うことのできる知識の涵養と、メディア機器を利用した情報発信の手法について学ぶことを目的とする。</p>							⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	博物館における専門的知識を取得し、博物館の情報機器、広報及びメディアについて説明できる。また、多様なメディアを活用し、基礎的な広報・普及活動を実践することができる。				課題レポート	40%	
情報収集、分析力	授業内で実施するプレゼンテーションによって、実際に様々なメディアを用いて他者に的確な情報伝達が可能となる。				プレゼンテーション	60%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>評価は、課題レポート40%、プレゼンテーション60%の配分で行う。</p> <p>課題レポートは、第11回講義の際にテーマを発表し、講義内容を十分に理解できているかを評価基準とする。レポート提出後、ポートフォリオでフィードバックを行い評価する。</p> <p>また、第12回～第14回には、学生が主体となってプレゼンテーションを実施する。発表は、受講人数に応じて発表者が変化するが、概ね6～7人のチームで構想を練り、様々なメディアを使用して1チーム9分のプレゼンテーションを行う。(準備1分、発表6分、質疑2分)テーマに関しては、第11回授業時に通達する。</p>							
授業の概要							
<p>授業は、パワーポイントを使用した講義形態を主とするが、受講者が主体となって行うグループ学習およびプレゼンテーションも実施する。</p> <p>また、毎回簡単な小テストをポートフォリオで行い、学生証のタッチと小テストの回答の両方で出席確認を行う。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定なし</p> <p>参考書：第1回講義内で紹介する</p> <p>指定図書：大堀哲、水嶋英治 編著 2012『博物館学 3 (博物館情報・メディア論*博物館経営論)』学文社</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
博物館学芸員課程の必修科目であり、博物館概論や博物館展示論、博物館経営論などの内容を踏まえて受講してほしい。また、授業中の私語や指示の無いスマホの使用、理由のない遅刻・途中退席は認めない。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	ガイダンス 博物館における情報	本講義の流れを概説し、博物館における情報とメディアの概念について解説する。	予：博物館を見学し、情報機器を見学する。
2	情報メディアの歴史	有史以前からの情報メディアの歴史と博物館への導入史について説明する。	予：近代以前の視聴覚メディアの歴史について予習すること。
3	博物館情報・メディアの理論 I	博物館メディアの役割と学習活用について解説する。	予：博物館のメディアについて予習する。
4	博物館情報・メディアの理論 II	情報発信の種類と意義と管理について解説する。併せて、インターネットを活用した情報発信についても説明する。	予：第1回講義にて例示した参考書を読んでおく。
5	博物館における情報発信 I	博物館が実践する様々な広報手段について解説する。	予：博物館が実践する広報手段について予習すること。 復：SNS などを利用した情報発信について実例を確認すること。
6	博物館における情報発信 II	博物館に設置されている様々なメディア機器とその活用について説明する。	予：博物館で用いるメディア機器について予習すること。
7	博物館と知的財産 I	著作権の保護について解説する。	予：知的財産権について予習すること。
8	博物館と知的財産 II	その他の知的財産と個人情報の保護について解説する。	復：個人情報保護法について復習すること。
9	博物館情報・メディアとポップカルチャー	現状の博物館では、チラシやポスター、WEBサイトによる情報発信だけでなく、観覧者の興味を引くためにマンガなどのポップカルチャーを使用する傾向にある。博物館によるポップカルチャーを用いた広報戦略および、博物館以外の人々の持つ博物館イメージを反映した事例について解説する。	予：博物館とポップカルチャーが関係する事例を調べておく。
10	資料のデータ化とデジタルアーカイブ	台帳のデータ化や WEB 上での公開およびデジタルアーカイブについて解説する。	復：デジタル台帳やデジタルアーカイブの実例を確認すること。
11	博物館の出版活動 展覧会計画の立て方	展覧会図録や年報、紀要などの出版・印刷物について解説する。また、プレゼンテーションにむけて、展覧会計画の立て方も併せて解説する。 ※課題レポート題目発表	予：展覧会図録や年報、紀要などを確認すること。
12	メディアを使用した情報発信の実践 I	これまで習った様々なメディアを実際に使用し、自分が学芸員になった場合を想定し、展覧会に関する情報発信についてグループディスカッションし、一つの企画にまとめる。	予：プレゼン資料に必要な参考図書・資料を収集する。
13	メディアを使用した情報発信の実践 II	纏まった企画をプレゼン資料として各自分担し、資料を作成する。	予：プレゼン資料の完成。
14	メディアを使用した情報発信の実践 III	各グループによるプレゼンテーションを行い、聞いているグループによる質問、感想を受け付ける。	予：プレゼンの練習。
15	総括	これまでの情報・メディア論の総括として、論全体を概観することで、現在の博物館における情報・メディアの課題を探る。	復：プレゼンの反省と全体の復習